

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会の実施について（報告）

和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会規程第 3 条第 1 項の規定に基づき、令和 7 年度第 2 回和歌山県立医科大学附属病院医療安全監査委員会を実施しましたので、同条第 2 項の規定に基づき、以下のとおり報告します。

1. 開催日時 令和 8 年 3 月 13 日（金） 13 時 45 分～15 時 30 分
2. 場 所 和歌山県立医科大学 管理棟 2 階 特別会議室
3. 出席委員 委員長 新田 雅彦（大阪医科薬科大学）
副委員長 中川 利彦（パークアベニュー法律事務所）
委員 浦野 敏（NPO 法人いきいき和歌山がんサポート）
4. 院内出席者 管理者・病院長 西村 好晴
医療安全管理責任者・副院長 保富 宗城
医療安全推進部長 田村 彰
医薬品安全管理責任者・薬剤部長 中川 貴之
医療機器安全管理責任者・病院長補佐兼臨床工学センター工学技士長
中村 一貴
事務局次長（病院担当） 末松 新一

5. 議事次第

議題 1. 医療安全推進部の活動報告

議題 2. 小児医療センターにおけるセラピードッグ活動の安全対策

6. 監査結果

- ・生体情報モニター管理について、組織的なワーキンググループの活動により課題を抽出し、取り組みを行うことで「入床漏れ」がなくなった点は非常に評価できる。今後は、モニターの装着・中止基準を作成し、多職種でモニター管理を行える体制を整えていただきたい。
- また、対応が難しかったケースについては、メーカーによるアラーム解析などのデータを活用し、より客観的に分析したうえで対策を検討していただきたい。
- ・薬剤の誤認防止については、照合の徹底をお願いしたい。特に、一連の業務の流れが分断される場面では誤認が生じやすいため、引継ぎ時などには、通常以上に注意を払い、確認や照合に十分な時間を確保するよう求めたい。

また、ヒューマンエラーを防止するシステムについても検討いただきたい。多職種で関与して取り組むべき課題であり、ヒューマンエラーの事例を、職員一人一人が自分のことと捉え、基本的な実践を徹底することを期待したい。

さらに、様々な周知活動についても、どのような効果を上げているのか、効果測定を実施していただきたい。

- セラピードッグの活動について、今後小児科だけでなく精神科など病院全体へ広げていただきたい。病院全体として非常に素晴らしい取組であるので頑張っていたいただきたい。
- 全体として、課題を適切に分析し、それに対して着実に対策を講じていると感じた。この取り組みを継続していくことで、さらなる安全管理体制の向上に努めていただきたい。